

職業文脈における比喩選好課題の開発と予備的評価

Development and preliminary evaluation of a metaphor preference task in occupational contexts

岡 隆之介[†], 神長 伸幸[‡]
Ryunosuke Oka, Nobuyuki Jincho

[†]追手門学院大学, [‡]ミイダス株式会社 HRサイエンス研究所
Otemon Gakuin University, Miidas Co., Ltd. HR Science Institute
[†]Qualia1006@gmail.com, [‡]Nobuyuki.jincho@miidas.jp

概要

本研究は、特定の職業場面における比喩選好の個人差を測定するための比喩選好課題（職業比喩課題）を作成し、その内的整合性とパーソナリティ尺度との関連の予備的検討を目的とした。参加者（ $N=224$ ）は、今回開発した職業比喩課題、曖昧さ耐性尺度（今川, 1981）、そして TIPI-J（小塩他, 2012）に回答した。結果、職業比喩課題は高い内的整合性を持ち、外向性と負の相関関係、協調性と正の相関関係にあることが示唆された。

キーワード：比喩選好, 職業, 個人差

1. はじめに

比喩とは、主題（例：彼女の笑顔）を喩辞（例：花）でたとえる表現（例：彼女の笑顔は花だ）である。一方で、文字が持つありのままの意味を用いて伝える表現（例：彼女の笑顔は明るい）を字義表現と呼ぶ。Cameron (2003)が行ったメタ分析によれば、比喩は日常会話において 1000 単語あたりに 50 単語の割合で使用されることが報告されている。

ある場面において比喩を使用するか否かには個人差があることも示唆されている。Fetterman et al. (2016)は、日常的な比喩使用の個人差を測定するための質問紙である Metaphor Usage Measure (MUM)を開発した。MUM は 30 項目からなり、日常的な文脈において、呈示された比喩と字義のどちらを好んで使うかを回答する課題である。たとえば、「I feel like jumping for joy (私は幸せで飛び上がりそうだ; 比喩)」と「I feel very happy (私はとても幸せだ; 字義)」の2つの表現が呈示され、どちらの表現をあなたが普段言いそうか、考えそうか、そして書きそうかが尋ねられた。MUM の合計得点は、その個人の比喩に対する選好の高さとみなされた。MUM の合計得点は、参加者の大学生活における体験について記述したエッセイに含まれる比喩の数 ($r=.22$)や、エッセイ全体から受ける比喩的印象と正の相関関係 ($r=.25$; Fetterman et al., 2016; Study 1)にあった。また、MUM は参加者の自己概念の理解（例：私は私自身のことをよくわかっている; $r=-.19$)や自尊感情 ($r=-.14$)と負相関

(Bultmann et al., 2020)であった。こうした研究は、日常的な状況において、比喩がどのような個人差と関連しているかを明らかにしていると考えられる。

一方で、比喩の使用には、状況差があることも知られている。たとえば、具体的な行動よりも、気持ちのような抽象的な体験を説明する場合に、比喩がより多く使用されることが報告されている (Fainsilber & Ortony, 1987; Williams-Whitney et al., 1992)。このように考えると、上述の先行研究のように、日常的な文脈以外での比喩使用の傾向性は、MUM のような日常状況に特定の尺度では測定が困難である可能性がある。すなわち、感情を表現する場合には比喩を使うが、他の日常的な場面では比喩表現を使わない人は存在しうが、こうした状況差を MUM は扱うことができない。特定の場面に沿った比喩に対する選好性を明らかにするためには、その場面に適した比喩と字義を収集し、参加者にどちらを選好するかを尋ねる必要がある。

本研究では、職業文脈に注目し、特定の職業場面に置かれた時に個人が比喩と字義のどちらを選ぶかの個人差を評価するための比喩選好課題（以下、職業比喩課題）の項目を作成し、その予備的評価を目的とする。職業文脈に注目するのは、たとえば体育の授業や医療従事者のリハビリなど、特定の職業やそれにひもづく場面では、職業に特有の比喩使用の傾向性がある可能性があるためである。たとえば、体育の先生であれば、高く飛ぶ指導をする時に、「大きく跳びましょう」というよりも、「天井に触れるように跳びましょう」という可能性がある（実際に、後者の比喩的な教示の方が、高く跳べると報告する研究もある; 北尾他, 2018）。こうした職業文脈による比喩使用の個人差を明らかにすることは、どのような個人が特定の職業に対する傾向性を持つかを明らかにする上で重要と考える。

本研究では主に2つの問題に取り組む。1つは、職業比喩選好課題を作成し、その内的整合性を評価することである。日常的な比喩利用の選好に関する個人差を

測定することを目的として開発された MUM は、内的整合性の指標として高い Cronbach's α 係数を報告している ($\alpha = .84$; Fetterman et al., 2016; Study 1). そのため、職業文脈における比喩選好課題においても、同程度の内的整合性が期待される。

もう 1 つは、探索的ではあるが、比喩選好との関わりが期待される心理特性 (曖昧さ耐性尺度と Big Five パーソナリティ尺度)の得点と、職業比喩課題の相関を明らかにすることである。Big-Five については、MUM (Fetterman et al., 2016)では $r_s > .20$ 以上の有意な相関がなかったことが報告されている。一方で、日本人成人を対象として、情動知能特性と日常的な比喩表現の使用頻度の関係性を検討した岡・楠見 (2019)では、野崎 (2012)の情動知能尺度で測定される他者の情動の調整および理解の測度の高さが、自己回答に基づく比喩表現の使用頻度の高さと相関する ($r_s = .25 \sim .27$)ことが報告されていることから、他者とのコミュニケーションスタイルに関連する Big-Five の因子 (外向性や協調性)と正の相関関係にある可能性がある。また、比喩選好と曖昧さ耐性の関係性を検討した研究はないが、同じく詩的表現である俳句から感じる美しさと、曖昧さ耐性の間には負の相関関係があることが報告されている (Hitsuwari & Nomura, 2024)ため、これら 2 つの関係性について検討することとした。

2. 方法

参加者 240 名 (男性 120 名; 平均年齢 40.2 歳)がクラウドソーシングサービス (クロス・マーケティング社)で収集された。分析の際には、職業比喩課題においてすべて同一の回答をした 16 名を除外した、224 名を分析対象とした。

調査票 本研究では、職業比喩課題、曖昧さ耐性尺度 (今川, 1981), そして日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J; 小塩他, 2012)を用いた。

職業比喩課題は、ある職業に関わる文脈が与えられた時に、参加者が比喩と字義のどちらを選ぶかを尋ねる強制選択課題である。職業比喩課題で用いた、職業文脈・比喩・字義の具体例を表 1 にまとめた。職業比喩課題において、参加者は職業文脈 (例: あなたは、親戚の小学 3 年生の子供に対して水泳を教えています。(中略)水泳のコツを教えるために、あなたは以下に呈示された表現のどちらを用いますか)と、比喩 (泳ぐときは、カメが泳ぐように、リラックスして泳ぎましょう)と字

義 (泳ぐときは、遅い速度で、リラックスして泳ぎましょう)が呈示され、この職業文脈において比喩あるいは字義のいずれを用いるかを回答することが求められた。課題は 38 問からなり、比喩に対する選択割合を職業比喩課題の得点とした。なお、比喩と字義の意味的な等価性は、ChatGPT などの生成 AI の提案を参考にしつつ、2 名の著者の合意によって保証した。

曖昧さ耐性尺度は今川 (1981)の ATS-IV を用いた。参加者は、「映画や小説では、はっきりとした結末のある物語が好きです」のように、特定の状況に対する曖昧さを受け入れられるかを、「1:まったく違う」から「7:まったくそう」の 7 件法で回答した。ATS-IV は 44 項目からなった。今川 (1981)の得点基準に基づき、得点の高さが曖昧さ耐性の高さを反映するように得点を変換した上で、各項目に対する平均得点を曖昧さ耐性得点として扱った。本研究における曖昧さ耐性尺度の Cronbach's α は .95 であった。

TIPI-J (小塩他, 2012)は Big-Five の下位尺度 (開放性: 項目例「新しいことが好きで、変わった考えをもつと思う」、勤勉性: 項目例「しっかりしていて、自分に厳しいと思う」、誠実性: 項目例「人に気をつかう、やさしい人間だと思う」、神経症傾向: 項目例「心配性で、うるたえやすいと思う」、外向性: 項目例「活発で、外向的だと思う」)のそれぞれについて、正項目と逆転項目が 1 つずつからなる、計 10 問からなる尺度である。参加者は呈示されたことばがどのくらい自身に当てはまるかを、「1:全く違うと思う」から「7:強くそう思う」の 7 件法で回答した。本研究における TIPI-J の正項目と逆転項目の項目間相関は外向性で $r = -.21$ 、協調性で $r = -.06$ 、勤勉性で $r = -.21$ 、神経症傾向で $r = -.10$ 、そして開放性で $r = -.21$ であった。

手続き 参加者は自身の性別、年齢、職業などの情報に回答したのち、職業比喩課題、曖昧さ耐性尺度、そして Big-Five パーソナリティ尺度の順に回答した。

表 1. 職業比喩課題の具体例

職業文脈	比喩	字義
あなたは、親戚の小学 3 年生の子供に対して書道を教えています。(中略)。そのコツを伝えるときに、あなたは以下に呈示された表現のどちらを用いますか。	筆を止めるときは、船が港に着くように確実に止めましょう。	筆を止めるときは、位置を確認しながら、確実に慎重に止めましょう。

あなたは、実家の祖母の手のリハビリに協力しています。祖母は歳をとってから、握力が落ちていきます。握力を鍛えるコツを教えるために、あなたは以下に呈示された表現のどちらを用いますか。

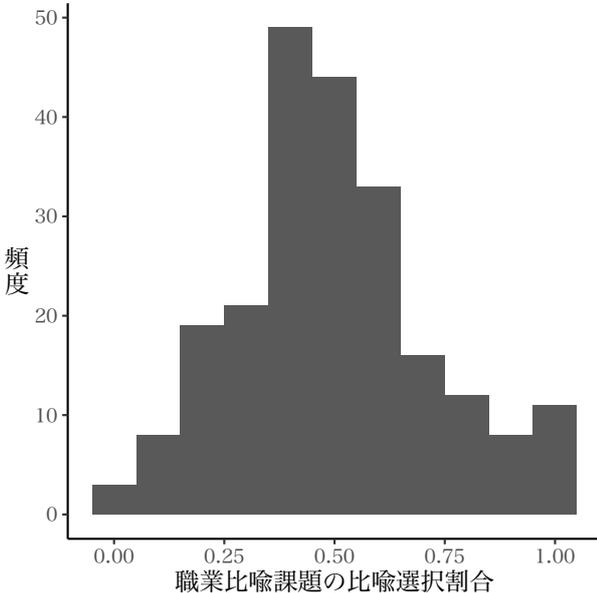
手のリハビリでは、硬貨を掴むように、指先で物を掴みましょう。

手のリハビリでは、指先の感覚に注意を向けながら、指先で物を掴みましょう。

3. 結果

はじめに、職業比喩課題の内的整合性を明らかにするため、38項目を用いて Cronbach's α を算出した。結果、職業比喩課題は Cronbach's $\alpha = .89$ の高い内的整合性を持ち、項目間での一貫性が高い課題であることが確認された。また、職業比喩課題における比喩選択割合を対象としたヒストグラムを図1に示した。図1に示した通り、職業比喩課題では天井効果も床効果も見られないことを確認した。

図1. 職業比喩課題の比喩選択割合のヒストグラム



続いて、探索的な分析として、職業比喩課題の得点、曖昧さ耐性尺度の平均値、そして TIPI-J の各下位尺度の平均値の記述統計量と相関係数を算出した (表 2)。表 1 の通り、職業比喩課題で比喩を選ぶ個人は、外向性が低く ($r = -.14, p < .05$)、協調性が高かった ($r = .17, p < .05$)。一方で、曖昧さ耐性尺度と職業比喩課題の間には有意な相関関係が認められなかった ($r = .05, n.s.$)。

4. 考察

本研究では、職業比喩課題を作成し、その内的整合性を評価することと、比喩選好との関わりが期待される個人差 (曖昧さ耐性尺度と Big Five パーソナリティ尺度) の得点と職業比喩課題の相関を検証した。実験の結果、職業比喩課題の Cronbach's α は .89 と高かった。また、職業比喩課題の比喩選択割合は、外向性の低さと、協調性の高さに関係していた一方で、曖昧さ耐性尺度との関連は認められなかった。

職業比喩課題の内的整合性は、Fetterman et al. (2016) で報告された内的整合性と (Cronbach's $\alpha = .84$) と同程度であった。このことは、特定の職業場面の比喩選好の個人差を測定する職業比喩課題は、日常的な比喩選好の個人差を測定する MUM と同程度に、比喩選好の観点では一貫した項目からなっていることを示唆している。実際に、職業比喩課題の 38 項目のうち、どの項目を取り除いても Cronbach's α を算出しても、値は .89 で変わらなかった。このことから、職業比喩課題もまた、MUM と同様に高い内的整合性を持つと判断した。

探索的な分析の結果から、Big-Five パーソナリティ尺度 (TIPI-J) と、職業比喩課題の得点の間の相関は必ずしも高くなかった ($r_s < .20$)。このことは、MUM と Big-Five の間に .20 以上で有意な相関関係が認められなかった Fetterman et al. (2016) の結果と一貫していた。一方で、本研究においては、TIPI-J と職業比喩課題の間には、外向性において負の相関が、協調性において正の相関関係が見られた。このことは、職業という文脈と、日常的な文脈では、比喩選好課題に対する反応が違うことを示唆しており、文脈によって比喩産出割合が異なるとする研究 (Fainsilber & Ortony, 1987; Williams-Whitney et al., 1992) と整合的な結果が得られたと考えた。Big-Five の内容ごとの考察として、外向性が高い個人は正確に物事を説明することが職業の文脈では重要と考えている可能性が示唆された。一方で、協調性の結果は興味深い。TIPI-J における協調性の項目間相関が低い ($r = -.06$; 協調性の項目間相関が他の側面の項目間と比べて小さいのは小塩他 (2012) と同様) ことから、慎重な解釈を要すると考えた。

さらに、曖昧さ耐性と職業比喩課題の間には有意な相関関係が認められなかった。詩的鑑賞における俳句の美しさの評価は、曖昧さ耐性が低いほど高くなることが報告されてきた (Hitsuwari & Nomura, 2024) が、職業場面においては、曖昧さ耐性は比喩選好と関係がみ

られないことが示唆された。

最後に、本研究に残された2つの課題について説明する。1つ目の課題は、職業比喩課題の妥当性の検証の必要性である。本研究では、職業比喩課題とTIPI-J、そして曖昧さ耐性尺度との関係性を検討したが、有意な相関を含めて、職業比喩課題との相関はいずれも小さかった ($r_s < .20$)。今後は、この課題がどのような個人差と関連するののかをより詳細に明らかにする必要がある。2つ目の課題は、職業比喩課題に対する、職業ごとの回答傾向の違いについての詳細な分析である。本研究では、職業比喩課題の内的整合性の評価を主たる目的としていたため、参加者募集時に、参加者の職種に基づく詳細な回答割り付けを行っていなかった。一方で、比喩選好課題に対する回答には、職業ごとの回答傾向の違いが想定されうる。たとえば、表1の2つ目の職業文脈(祖母のリハビリの協力)であれば、回答者本人が支援の場面に関係した仕事についているかによって、比喩的な説明を好むなどの選好があるかもしれない。このような分析をするためには、別の参加者集団を対象として、職種と個別の質問の回答傾向の分析を進める必要がある。本研究では、職種を区別することなく収集したため、参加者に尋ねる項目も不十分であったが、今後の研究ではこの点を明らかにし、どのような個人が特定の職業に対する傾向性を持つかを明らかにする必要があるだろう。

文献

- Bultmann, M. N., Wheeler, N., Jimenez, T., & Arndt, J. (2020). Grasping for metaphors: Identity ambiguity contributes to the preference for metaphor usage. *Journal of Language and Social Psychology, 39*(5-6), 764-776.
- Cameron, L. (2003). *Metaphor in educational discourse*. Continuum.
- Fainsilber, L., & Ortony, A. (1987). Metaphorical uses of language in the expression of emotions. *Metaphor and Symbol, 2*(4), 239-250.
- Fetterman, A. K., Bair, J. L., Werth, M., Landkammer, F., & Robinson, M. D. (2016). The scope and consequences of metaphoric thinking: Using individual differences in metaphor usage to understand how metaphor functions. *Journal of Personality and Social Psychology, 110*(3), 458-476.
- Hitsuwari, J., & Nomura, M. (2022). Ambiguity and beauty: Japanese-German cross-cultural comparisons on aesthetic evaluation of haiku poetry. *Psychology of Aesthetics, Creativity, and the Arts, 18*(6), 1004-1013.
- 今川民雄 (1981). Ambiguity Tolerance Scale の構成 (1): 項目分析と信頼性について. 北海道教育大学紀要, 32(1), 79-93.
- 北尾浩和・来田宣幸・深田智・中本隆幸・小島隆次・萩原広道・野村照夫 (2018). 言語的な動作指示の違いがパフォーマンスに及ぼす影響: 言語的な動作における関節角度、動作時間および跳躍高の変化について. 日本感性工学会論文誌, 17(2), 257-265.
- 岡隆之介・楠見孝 (2019). 比喩表現の伝達目標別の使用頻度と情動知能特性との関連.
- 小塩真司・阿部晋吾・カトローニピノ (2012). 日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 作成の試み. パーソナリティ研究, 21(1), 40-52.
- 野崎優樹 (2012). 自己領域と他者領域の区分に基づいたレジリエンス及びストレス経験からの成長と情動知能の関連. パーソナリティ研究, 20, 179-192.
- Williams-Whitney, D., Mio, J. S., & Whitney, P. (1992). Metaphor production in creative writing. *Journal of Psycholinguistic Research, 21*, 497-509.

表2. 変数間の記述統計量と相関係数 ($N = 224$)

	<i>M</i>	<i>SD</i>	1	2	3	4	5	6	7
1. 年齢	40.19	10.67							
2. 曖昧さ耐性	4.17	0.78	0.155 *						
3. 外向性	3.64	1.20	-0.038	-0.243 ***					
4. 協調性	4.56	1.02	0.061	0.084	-0.067				
5. 誠実性	4.00	1.16	0.066	0.016	0.115	0.373 ***			
6. 神経症傾向	4.00	1.08	0.037	0.176 **	-0.193 **	-0.356 ***	-0.332 ***		
7. 開放性	3.71	1.07	-0.114	-0.176 **	0.516 ***	0.025	0.264 ***	-0.244 ***	
8. 職業比喩課題	0.50	0.22	0.046	0.057	-0.139 *	0.168 *	0.105	0.055	0.078

Note. *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$